



さかなクン

【資料について】 いじめのない集団【公正、公平、社会正義】 教科書p30~p33

中学生のときに、友人や先輩が無視される状況を目の当たりにした筆者・さかなクンは、さかなの世界にも同じようにいじめがあることを綴っている。また、仲間はずれにされた子と一緒につりをするなど、その子を孤立させないことや、好きなことに夢中になるといやなことを忘れられると語っている。いじめやいじめにつながるトラブルを解決し乗り越えることで、新しい集団生活を送ることができると気づかせてくれる教材である。

【ねらい】

いじめという身近な問題を登場人物の心情に寄り添い考えることを通して、自己と向き合い同調圧力に流されず、正義や公正を実現するために努力しようとする態度を育てる。



さかなクン

仲間はずれにされた子とつりに行った時…

仲間はずれにされた子

少しでもいいから楽しんでほしい

「一人じゃない」とわかってほしい

助けてあげられなくて申し訳ない

この人はいじめないから安心だ

自分にも仲間がいる

誰かがそばにいたら楽になるかも

自分ができる限りのことをしたい

リフレッシュさせてあげたい

友達がそばにいてくれてうれしい

不安な気持ちが安心へと変わった



いじめに遭遇したら自分はどう行動したい？

- その人が友達だったら助けるし、友達じゃなくても励ましてあげたい。
- 先生に相談したり、いじめている人に軽く注意をしたり、いじめられている人の相談にのったりしたい。
- ちゃんと「ダメ」って言いたい気持ちもあるが、自分もそのせいでいじめられたりしたら嫌だから無理かもしれない…。

今日の授業で考えたこと

- 今までには加害者に注意をするという考え方だったけど、この授業で被害者に寄り添ってあげることも大切だと気付いた。
- いじめには絶対に加わらないし、相談にのって少しでも気持ちを楽にしてあげたい。
- 他人のために自分が標的になってまで助ける勇気は僕にはないので、助けようとしている人がいるならその人に手を貸してあげたい。